

愚かな男の話

岡本かの子

青空文庫



「或る田舎に二人の農夫があつた。両方共農作自慢の男であつた。或る時、二人は自慢の鼻突き合せて喋しゃべり争つた末、それでは實際の成績の上で証拠を見せ合おうという事になつた。それには互に甘かん蔗しよを栽培して、どっちが甘いのが出来るか、それによつて勝負を決しようと約束した。

ところで一方の男が考えた。甘蔗は元来甘いものであるが、その甘いものへもつて来て砂糖の汁を肥料としてかけたら一層甘い甘蔗が出来るに相違ない。これは名案々々！ と、せっせと甘蔗

の苗に砂糖汁をかけた。そしたら苗は腐ってしまった」



「或ところに愚かな男があつた。知人が家屋を新築したというので
拝見に出かけた。普請ふしんは上出来で、何処どこも彼処かしこも感心した中に特
に壁の塗りの出来栄えが目にとまった。そこで男は知人に其の塗
り方を訊いてみた。知人が言うには、此の壁は土に糲もみ殻がらを混ぜ
て塗ったので斯こう丈夫に出来たのであると答えた。

愚かな男は考えた。土に糲殻を混ぜてさえああ美事に出来るので
ある。一層、実の入っている糲を混ぜて塗ったらどんなに立派な

壁が出来るだろう。そして今度は自分の家を新築する際に、此のプランを実行してみた。そしてら壁は腐った」

以上二話とも、あまり意気込んで程度を越した考えは、却つて不成績を招くという道理の譬え話になるようである。



「或るところに狡ずるくて知慧の足りない男があつた。一月ばかり先に客を招んで宴会をすることになった。ところで其の宴会に使う牛乳であるが、相当沢たくさん山の分量が要るのである。

それを其の時、方々から買い集めるのでは費用もかかり手数も

かかると、男は考えたのである。そこで知人から乳の出る牝牛を一ヶ月の約束で賃借りして庭に繋いで飼って置いた。

牝牛の腹から出る牛乳を毎日搾らずに牝牛の腹に貯めて置いたなら、宴会までには三十日分のもものが貯って充分入用の量にはなるだろうと思つたのである。

宴会の日が来た。男はしてやったりと許り牝牛の乳を搾つた。そしたら牝牛の腹からはやっぱり一日分の分量しか牛乳は出なかつた」

○

「何か勲功てがらがあつたので褒美ほうびに王様から屠ほふつた駱駝らくだを一匹貫もらつた男があつた。男は喜んで料理に取りかかった。なにしろ大きな駱駝一匹料理するのであるから手数がかかる。切り剖く庖丁はじき切れなくなつて何遍も研とぎ直さねばならなかつた。男は考えた。こう一々研ぎ直すのでは手数がかかつてやり切れない。一遍に幾度分も研いどいてやろう。そこで男は二三日がかりで庖丁ばかり研とぎにかかつた。

かくて、庖丁の刃金は研ぎ減り、駱駝は暑気に腐つてしまつた」



「やはり愚な男があつた。腹が減つていたので有り合せの煎餅せんべいをつまんで食べた。一枚食べ、二枚食べして行つて七枚目の煎餅を半分食べたとき、彼の腹はちょうど一ぱいになったのを感じた。男は考えた、腹をくちくしたのは此の七枚目の半分であるのだ。さすれば前に食べた六枚の煎餅は無駄というものである。それからというものは、この男は腹が減つて煎餅を食べるときには、先ず煎餅を取つて数えた。一枚、二枚、三枚、四枚、五枚、六枚、そしてこれ等の六枚の煎餅は数えただけで食わないのである。彼は七枚目に當つた煎餅を口へ持つて行き半分だけ食つた。そしてそれだけでは一向腹がくちくならないのを如何にも不思議そうに考え込んだ」(百喻経より)

青空文庫情報

底本：「岡本かの子全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1994（平成6）年2月24日第1刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十四卷」冬樹社

1977（昭和52）年5月15日初版第1刷

初出：「キング」講談社

1936（昭和11）年5月号

入力：門田裕志

校正：オサムラヒロ

2008年10月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

愚かな男の話

岡本かの子

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>